

CIRレポート4月号（スペイン）

「ハビエル・フェルナンデスと羽生結弦

～フィギュアスケートの頂点で最大の友情と競争の物語～」

国際交流員 マリア・ルビオ（スペイン）

みなさんがご存じの通り、4月1日ヘルシンキで羽生選手が見事な演技でフィギュアスケート世界選手権に逆転優勝し、友人そしてライバルのハビエル・フェルナンデス選手から世界一位の座を奪いました。

私はみなさんのように羽生選手のファンですけど、スペイン人として応援するのは同じ国籍のフェルナンデス選手です。今回は3連覇を狙ったフェルナンデス選手がSPでとてもいい成績を獲得しましたが、残念ながらFSでのジャンプの転倒の影響で陥落してメダルも取れませんでした。少し寂しい結末でしたが、歴代最高を記録した羽生選手の素晴らしい才能には脱帽です。おめでとうございます！

実は私は最近までフェルナンデス選手のことをあまり詳しく知りませんでした。スペイン人よりも日本人のみなさんの方がよく知っていると思います。サッカー王国スペインでは日本とは違ってフィギュアスケートは非常にマイナーなスポーツだからです。例を挙げると、隣の国フランスのフィギュアスケート連盟の登録者は約15000人です。それに対しスペインでの登録者はわずか約300人です。トレーニング施設も乏しくて、全国で公認を得ることができるリンクは10カ所しかありません。

日本の大衆スポーツであるフィギュアスケートと比較すると、サッカーを中心に放送するスペインのスポーツニュースでは、フィギュアスケートのことはあまり取り上げられません。（驚くことに、フェルナンデス選手が2015年世界選手権に優勝した時もマスコミ報道はともあっさりしていました）

確かにフィギュアスケートは経済的な余裕があるかスポンサーがついていないとなかなか難しいスポーツなので、スペインではそんなに広がっていません。本格的なスケート靴の値段はスペイン人の平均月給とほぼ同額なのでそれに加えて、衣装代、プログラムの構成、リンクの使用料、コーチや振付師への謝礼等を含めたら、プロ選手を目指す人にとっては大きな投資になります。その厳しい現実と闘いながら、史上初の世界レベルのフィギュアスケート選手が生まれました。



フェルナンデス選手の成功話をみなさんに紹介します！

フェルナンデス選手はマドリッド生まれで、(私の実家の近く)、姉の影響でフィギュアスケートを始めました。夢を実現させるために17歳の若さでスペインを去って、アメリカ、そしてカナダで一人暮らしの生活を始めました。最初の時期はとても辛くて不安で寂しかったようですが、ずっと目標を諦めませんでした。

現在、スケート界では伝説的なコーチ、カナダ人の元スター選手ブライアン・オーサー氏から指導を受け、トロント市でトレーニングを初めてから7年目になります。

先日、ユーチューブで、スペインのテレビ局が取材したフェルナンデス選手に関するとても面白いドキュメンタリー動画を見ました。その中でブライアン・オーサーコーチがインタビューされていました。

(Informe Robinson: Javier Fernándezで検索。言葉：スペイン語・英語) フェルナンデス選手について聞かれたら、オーサーコーチがこう語ります：

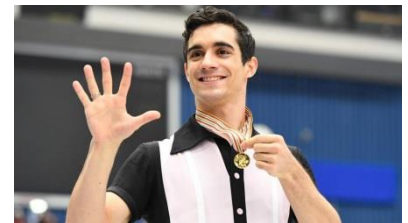
「初めてハビエルに出会った時、才能あふれる選手として認めたが、彼の体調が悪くて、スケートは乱れ、簡単に負けました。」その頃のフェルナンデス選手は将来に向けた目標もはっきり設定してなくて、スケート選手としての厳しい練習も怠っていたといいます。まるでダイヤモンドの原石のようでした。

トロントに到着したばかりの時期にフェルナンデス選手がトレーニングに遅刻し寝坊して欠席した時もあったので、厳密なスケジュール通り動くオーサーコーチとの間に摩擦が生まれました。何も考えずに純粋にスケートしたかったフェルナンデス選手には、規律と秩序が足りなかったようです。「その時期、彼に叱ってひどく怒鳴ったときもあったが、よくやめなかったと思う」とオーサーコーチが語っています。

障害を乗り越えて本格的なトレーニングをスタートしてから1年も経っていない頃、フェルナンデス選手が最初の欧州選手権で優勝できました！（現在、5連覇）。

予想外のフェルナンデス選手の出世話は日本まで届いて、ある日オーサーコーチに謎めいた連絡がきて、秘密の面会を申し込まれました。相手はなんと、羽生選手でした。日本フィギュアスケート界の天才児がフェルナンデス選手とともにオーサーコーチの下でトレーニングしたかったようです。「フェルナンデス選手は観客にスケートの演技は簡単のように見せ、継続的に良い成績を出すことができるので一緒にトレーニングしたかった」と羽生選手がインタビューで説明しました。

それ以降、トロントで2人は一緒にトレーニングを行っています。切磋琢磨ながら日常的な練習を共有するトップ選手2人の姿は珍しい光景です。毎日のトレーニングではお互いに負けないように激しい競争を通して2人とも限界を押し広げます。フェルナンデス選手にとって、羽生選手が隣にすることが刺激となりより強くなりました。「トレーニングでは体調や気分がすぐれない日もある。その時、仲間が完璧な演技ができたことに対して当然腹が立



つ。自分が勝ちたいからですね。」とフェルナンデス選手が笑いながら語ります。「羽生選手はとても芸術的で、ジャンプも美しく、高く舞い上がる。トレーニングに非常に熱心な人だ。一方、フェルナンデス選手が落ち着いていて、プレッシャーがかかっても冷静さを保てるので本番に有利になる。」とオーサーコーチが分析します。

陽気な性格で知られているフェルナンデス選手が観客と審査員に好まれています。「プレッシャーに対処するのは苦手だけど、フェルナンデス選手のおかげで出来るようになった。緊張すると彼がいつもおかしな話をしてくれる。ある意味では彼がいてくれるのおかげで私は成功できる」と羽生選手が述べていました。

スケートリンクの上での2人の姿は似ていますが、文化背景の違いで性格も違うようです。羽生選手はトロントでお母さんと一緒に住んでいます。トレーニングだけではなくて大学の勉強にも励んで、あまり社交的な行動をしないようです。一方、フェルナンデス選手は1人暮らしをしていて、週末友達とよくビールを飲み、街に出かけるのが好きなようです。正反対なパーソナリティーを持っている2人が競争相手ながら友情の絆が強くて、兄弟のような関係を持っているようです。よく大会の際、お互いに暖かい祝いの言葉を交わすことや抱きしめあったりすることなどの行動は素晴らしいフェアプレーのお手本だと思います。こうして、トレーニングが進んで2015年になりました。上海で開催された世界フィギュアスケート選手権が開かれた際、オリンピックチャンピオンの羽生選手が優勝することが予想されていました。しかし、そんな中、フェルナンデス選手が現れて、奇跡が起きました。金メダルを勝ち取った彼はスペイン人で初めての欧州王者として輝きました。

「正直言うと、自分自身が勝てると想像もできなかった」と、成績の発表が出た時目を疑ったというフェルナンデス選手。「うそかと思った。だって、僕はスペイン出身だよ。フィギュアスケートの世界に全く影響がない国よ。」と本人が語りました。



オーサーコーチ、そして世界一のスケート選手である羽生選手のおかげでフェルナンデス選手の経歴は素晴らしいものとなっています！フェルナンデス選手の次の闘いは2018年の平昌オリンピック。26歳になったフェルナンデス選手にとってはオリンピックメダルを獲得する最後のチャンスとなります。もちろん、羽生選手がライバルに負けるつもりはないでしょう。

来年、平昌で行われる2人の対決を楽しみにしたいと思います！